

第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

重点目標⑤ 就学前教育の充実

生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることから、「生きる力」「共に生きる力」の基礎となる力を育成します。



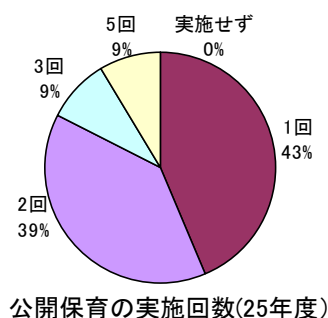
1 遊びを通しての「学び」の充実

◆ ねらい

幼児の自発性、好奇心などを重視した遊びや体験を通し、人格形成の基礎となる教育を展開し、「生きる力」「共に生きる力」の基礎を育成します。

取組指標	実績値 (平成23年度)	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	目標値 (平成27年度)
遊びを通した「学び」の充実に係る公開保育の実施回数	96%の園が1回以上実施	100%の園が1回以上実施	100%の園が1回以上実施	各園1回以上

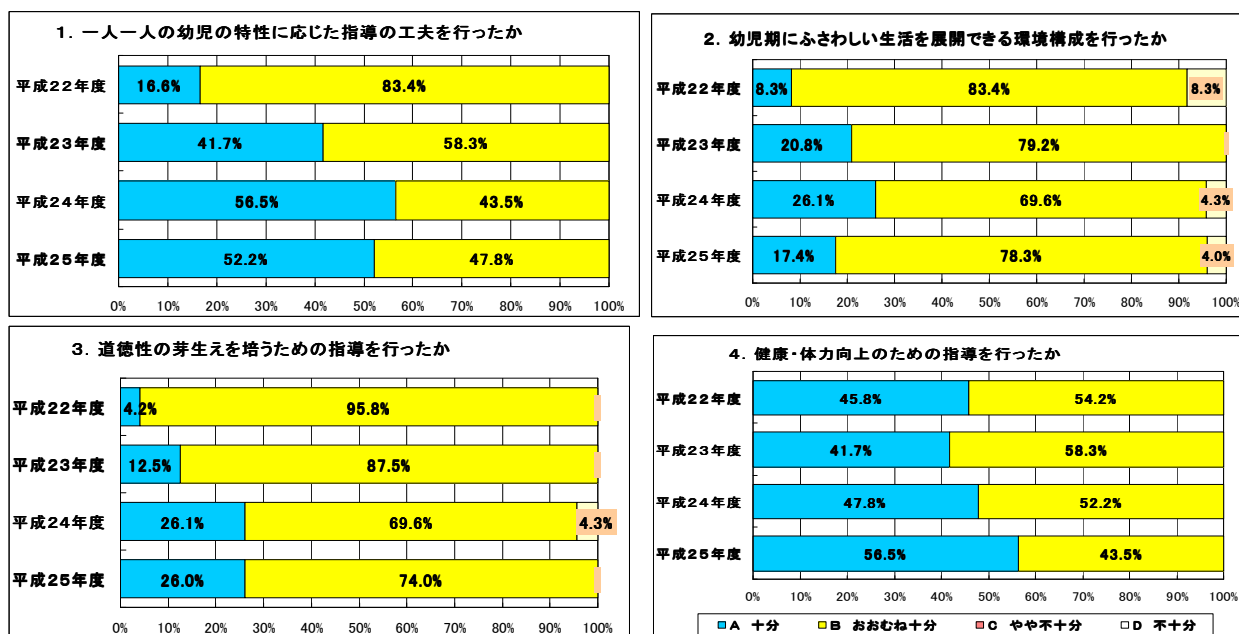
◆ 現状と課題



幼児の遊びを充実させるための取り組みについては、全園で積極的に進めています。幼稚園教育は「環境を通して行う教育」を基本とし、年齢や発達課題に応じた環境構成を行い幼児の特性に応じた指導の工夫を行っています。全園で公開保育を1回以上行い、教師間の学びあいの場となっています。公開保育を行う中で、教師のかかわりや環境構成について見直し、事後の研修で幼児期にふさわしい環境とは何か、遊びを通してどのような学びにつながったかなどの研修を進め、実際の指導に生かしていくようにしています。

また、学びの連続性（幼保小中との連携）を大切にした取組も進めています。今後も遊びの中での「学び」がつながるように連携し、指導の充実を図っていく必要があります。

○ 平成25年度の公立幼稚園教職員のアンケート結果(23園)



重点⑤ 就学前教育の充実

- 教職員のアンケート結果から、ほとんどの教職員が「一人一人に応じた指導」に心がけ、幼児の特性に応じた指導の工夫を行っている結果がみられました。「環境構成の充実」については、その重要性を感じてはいるものの「十分」という回答が昨年度より減りました。「健康・体力向上のための取り組み」については、継続的に取組を進めている状況がみられました。

◆ 今後の方向性

- 一人一人の幼児の特性に応じた指導や幼児にふさわしい環境構成の工夫によって、園での活動が幼児の発達にとって、より一層意味のあるものにしていくことが必要です。全職員が幼児の成長のために共通認識し、具体的な課題をもって教育実践に取り組みます。
- 道徳性や規範意識を高めるためには、家庭と共に進めていく教育が必要になってきます。集団生活のなかでの具体的な場面を通しての指導はもちろんのこと、家庭との連携を深めながら、教育に取り組んでいく必要があります。
- 健康で安全な生活習慣や態度の育成を目指し、戸外遊びや運動遊びの充実など、心身共にたくましく育つよう取組を継続的に進めます。
- 教師の専門性を一層高め、遊びの中で幼児同士がかかわりあう機会を通じて、集団の中でルールを学んだり、自分の思いを出したりして幼児が遊びの充実感を味わうことができるよう取り組みます。
- 幼稚園教育をさらに充実させるとともに、保育園や小学校との連携を深めて、円滑な接続が図れるよう、段差のない教育の取組を進めます。



◆ 主な取組状況

- 幼稚園での食育活動の取組について
健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切です。このことを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中でみんなと同じものを食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味・関心を持ったりすることで、進んで食べようとする気持ちが育つようにしています。



平成20年度からはじまった家庭弁当を基本とした週1回デリバリー方式の給食は、平成23年度より週2回実施になりました。幼児の給食は、安全・安心で栄養バランスのとれたもので、家庭の食育支援にもつながっています。教師は、衛生管理・食の教育の研鑽に励み、食育の充実を図っています。

- 幼稚園での特別支援教育の取組について
特別支援教育についての取組では、集団の中で個に応じた指導や支援ができるよう指導内容や方法を関係機関と連携し研修に取り組んでいます。教師一人一人の資質向上を目指し、特別支援教育の理解を深められるよう研修を進めています。
また、教育支援課や発達総合支援室・保育園と共に、就学前教育における特別支援教育のあり方について連携をとりながら、研修の充実を図っています。

2 子育て支援の充実

◆ ねらい

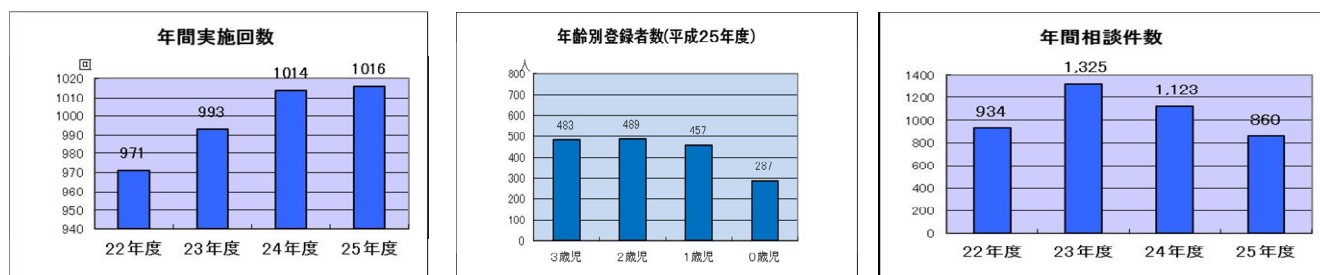
安心して子育てができるよう家庭と地域との連携を深め、幼児の生活を創造する子育て支援の場を設定します。

取組指標	実績値 (平成23年度)	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	目標値 (平成27年度)
園ホームページによる教育活動や子育てに関する情報提供の頻度	平均10日に1回程度	週1回以上の園13園(56%)	週1回以上の園17園(74%)	週1回以上

◆ 現状と課題

園の生活や地域との連携のなかでの園児の様子を中心に教育活動、子育て支援(遊び会)情報など各園のホームページで発信しています。情報提供の頻度については、週1回以上実施達成は23園中17園(74%)となり、情報発信に努めています。家庭・地域との連携をより図っていくために、わかりやすく、見やすい内容の改善を行っています。

○ 平成25年度公立幼稚園における子育て支援(遊び会)の状況



- 年間の実施回数は述べ1,016回、3歳児対象の遊び会実施園が18園となり、回数、内容の充実を図っています。年齢別登録数は1歳から3歳までほぼ同数であり、低年齢からの子育ての場の必要性が伺えます。継続的に通う参加者の姿もあり、毎回楽しめる内容と安心して遊べる場の工夫をしています。
- 相談件数については、昨年よりやや減少していますが年間860件の相談件数があり、指導員、職員に子育ての悩みや心配などを気軽に話せる場として充実を図っています。
- 各園の活動指導員については、実技を取り入れた保育内容、子育て相談などの研修会を年間2回行い資質向上に努めています。

◆ 今後の方向性

- 園づくり活動指導員の配置を継続し、保護者が安心感と自信をもってわが子と向き合い子育ての喜びや楽しさを感じられる子育て支援の内容の充実を図っていきます。
- 各幼稚園では、地域の幼児教育のセンター的な役割が果たせるよう、情報発信に努め、子育てや教育の相談に積極的に対応していきます。そして、保護者同士の交流・子育てについて学ぶ場としての在り方を工夫していきます。

重点⑤ 就学前教育の充実

◆ **主な取組状況**

- 市民活動団体が行う子育て支援事業について
 地域住民が主体となって子育て支援運営委員会を設置し、地域住民の民主的な運営により子育て支援活動を行っています。
 現在、下野地区と富洲原地区で実施されています。
- 子育て支援の拡充について
 今年度は「幼稚園ウィーク」と称した遊び会を企画し、北部、中部、南部のブロック別に地域を拡大して呼びかけをしました。地域を超えての参加者の方もあり、公立幼稚園の教育を知っていただく機会にもなりました。
 今後も安心して子育ての出来る場、相談できる場として地域や園が連携を取り合い、さらに充実できるように取組をすすめていきます。

平成25年度公立各幼稚園における子育て支援（遊び会）の状況

	幼稚園名	実施曜日と回数				時間	年間実施回数	年間参加数(組)	年間相談件数	登録者数(組)
		全体		3歳児対象						
1	四日市	毎週(水)	月4回	毎月第3(火)	月1回	9:30~11:30	41	700	31	111
2	橋北	毎週(木)	月4回	毎月第2・4(火)	月2回	10:00~11:30	50	411	12	52
3	富田	毎週(水)	月4回	毎週(月)	月4回	10:00~11:30	63	657	36	83
4	海蔵	毎週(木)	月4回	毎月(火)	月2回	10:00~11:30	37	398	33	101
5	納屋	毎週(火)	月4回			10:00~11:30	37	225	0	45
6	泊山	毎週(水)	月3回	11月、2月	年2回	9:30~11:00	25	680	6	122
7	内部	毎週(木)	月3~5回	毎週(金)	月1~3回	10:00~11:30	41	851	34	124
8	川島	毎週(水)	月3~4回	毎月第2(火)	月1回	10:00~11:30	38	640	62	88
9	神前	毎週(水)	月4回	毎週(木)	月4回	10:00~11:30	72	468	50	36
10	三重	毎週(木)	月4回	毎月第2(月)	月1回	10:00~11:30	47	886	43	72
11	保々	毎週(金)	月4回	2月後半~3月	年3回	10:00~11:30	50	585	34	66
12	下野	毎週(月)	月4回			9:30~11:30	32	354	34	74
13	羽津	毎週(金)	月3回	第2(水)最終(金)	月2回	10:00~11:30	48	753	51	95
14	富洲原	毎週(火)	月4回			10:00~11:30	38	504	21	66
15	高花平	毎週(水)	月4回	毎月(金)	月1~2回	10:00~11:30	50	313	3	44
16	大矢知	毎週(金)	月4回	12月より	月1回	10:00~11:30	29	377	11	77
17	八郷中央	毎週(木)	月4回	毎月第1・3(火)	月2回	10:00~11:45	43	550	128	86
18	桜	毎週(水)	月3~4回	3月	年1回	10:00~11:30	37	529	18	78
19	常磐中央	毎週(火)	月3~4回			10:00~11:30	30	1018	181	141
20	塩浜	毎週(木)	月4~5回			9:30~11:30	45	500	10	67
21	笹川中央	毎週(金)	月4回	毎月(水)	月1回	10:00~11:30	40	299	1	36
22	三重西	毎週(水)	月3回	毎月第2・4(月)	月1~2回	10:00~11:30	44	504	26	52
23	楠北	毎週(水)	月4回	毎月第1(金)	月1回	9:30~11:30	42	505	49	61
24	楠南	毎週(木)	月4回			9:30~11:30	36	231	6	23
平成25年度合計							1,016	12,438	850	1,716

3 幼保小の連携の充実

◆ ねらい

学びの一体化の一層の推進のため、幼稚園と保育園、就学前教育と小学校教育の連携及びその充実を図ります。

取組指標	実績値 (平成23年度)	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	目標値 (平成27年度)
スタートカリキュラムの活用に関する担当者研修会の実施回数	年2回実施	年2回実施	年2回実施	年2回実施

◆ 現状と課題

就学前から中学校卒業までの子どもの育ちをふまえ、学びのあり方に目を向けた教育実践が展開できるよう、学びの一体化研修における連携の充実が進められています。就学前と小学校入学時の滑らかな接続をめざした交流の継続および充実を図るとともに、幼保小協働で指導したことが小・中の学びへ生かされるよう、各中学校区の学びの一体化研修等で還流し、子どもたちの変容や効果をとらえていくことが重要です。

◆ 主な取組状況

○ 幼保及び小学校との合同研修の充実

小・中学校間で実施される授業公開等に加え、幼稚園や保育園の保育公開等においても校区の教職員交流が進みました。保育の様子や学習指導の様子を実際に見合うことを通して、学びの連続性について検討する校区が増えました。本年度も校区内に幼稚園や保育園がある全ての中学校区において、幼保小連携に係る協議が行われました。

市内幼保小中の学びの一体化担当者全員が集まる担当者研修会においては、先進的な連携をした校区の実践を共有しました。また、第3回目の担当者研修会では、「スタートカリキュラム四日市市版（案）」をもとに、就学前の子どもたちの生活や学びを具体的にとらえる研修をしました。

○ 幼保小が連携した教育活動の実践

幼保小の円滑な接続を意識した教育活動として、小学校生活科や総合的な学習の時間の取組に園児を招待したり、入学前には小学校体験や給食体験が行われたりしています。幼保小連携部会からは保育園年長児と小学校5年生が1年間長期的に交流する保小合同の実践記録および実践指導案を学びの一体化担当者研修会で提供しました。



小学校でのプール体験



小学校の大縄大会への参加



凧揚げ体験

重点⑤ 就学前教育の充実

○ 幼保小連携スタートカリキュラム四日市市版の作成・実施

小1プロブレムや中1ギャップと言われている課題がクローズアップされる中、就学前の子どもの育ちをふまえ、小学校生活のスタート時期における学びのあり方に目を向けた教育実践が必要とされています。幼保小連携部会で検討を続けてきたスタートカリキュラム（案）が完成し、各小中学校および市内公立幼稚園・保育園へ配付しました。

【内容】

- * 幼保小の接続期に着目した学びの連続性カリキュラム
 - * 小学校生活へつながる保育・教育活動と幼保の経験を生かした指導の工夫
- ① 友だちとの関係づくり
 - ② 一日の生活時程
 - ③ 保育室・教室環境
 - ④ 学びの基礎となる力
 - ⑤ 規範意識
- * 就学前の活動について理解を深めるための保育環境資料
 - * 就学前と小学校入学の接続期に活用したい「歌・手遊び・絵本」
 - * 幼保小協働による授業実践
 - * 幼保小連携シート（年長児対象）四日市市版「つながりシート」（就学前の実践と小1の実践を列記できる比較資料）

「つながりシート」は、幼稚園や保育園と小学校の間で行われる情報交換や指導の引継ぎ等で、子どもの学びや成長が校種間で滑らかに連続することをねらっています。平成25年度は「つながりシート」を活用し、就学前の学びをよく理解し、次年度への指導に役立てるために具体的な話し合いを行う校区が増えました。



◆ 今後の方向性

○ 各校区において「スタートカリキュラム四日市市版（案）」を活用し、校区の特徴を生かした幼保小協働の実践を積極的に進めます。幼保小連携部会は実践をふまえた上での各校区からの意見等を集約し、スタートカリキュラム（案）の内容を追加・修正し、小学校生活へ円滑に接続する就学前教育のあり方を目指す有効な資料となるように検討していきます。

○ 就学前教育における学びを生かした具体的な連携について、その意義を校区で共有し、各校区における連携プランが確立されるよう進めていきます。相互に指導のねらい・内容を深く理解し合う具体的な取組を通して、園では小学校以降の生活や学習の基盤を育成し、小学校では新入児が安心して学べる環境づくりや指導につなげていきます。

